

令和5年度 第3回下野市地域自立支援協議会 議事録

日時 令和5年10月19日(木) 午後1時30分から午後3時30分  
場所 下野市庁舎203会議室  
出席者 委員 : 別紙名簿参照  
欠席者3名 寺内委員、早乙女委員、粥見委員  
アドバイザー: 大嶋コーディネーター  
事務局 社会福祉課障がい福祉グループ 北野、増淵、上野(早)、上野(大)  
障がい児者相談支援センター 小川、手塚、鈴木、福田  
傍聴人 3名(県南健康福祉センター実習生)  
審議内容 (原則として発言委員名を明記し、発言の要点のみを記載している。)

第1部 全体会 午後1時30分から午後2時30分

1. 開会

社会福祉課 北野グループリーダー

欠席報告 寺内委員、早乙女委員、粥見委員

2. 会長あいさつ

3. 議事

議事録署名人に野原委員・加藤委員を指名し了承。

(1) 下野市地域自立支援協議会 就労部会からの報告

(事務局)

資料1-①、1-②に基づき報告。

(鱒淵会長)

今回農福連携・ユニバーサル農業の研修会ということで、はくつる会工房つばさと若林ファームとの連携の事例を発表してもらった。福祉と農業が結びつくことで、こんな効果が出ているということを発表することができてよかった。

(山城委員)

農福連携は手の届かないところと思っていたが、支援員と利用者が少し頑張ればできると考えた。そらいロとしては、利用者が安定して通え、確保できるようになってから取り組みたい。

(鱒淵会長)

若林ファームは、利用者ができる内容で作業を提供するので、これができないと農福連携できないということはなく、福祉施設の立場に立った考えをしてくださってい

た。農業は一朝一夕でできるものではなく、お互いの歩み寄りや勉強、工夫が必要だ  
と思うが、それが成功すると収入アップだったり、農家にとっても他の従業員にとっ  
てプラスになったということもある。ぜひ下野市内で増やしていければと思っている。  
る。

## (2) 下野市第7期障がい者福祉計画について

(事務局)

資料2-①、2-②、2-③に基づき報告。

(鱒淵会長)

前回の策定委員会で、障がい児に関するアンケート調査回収数が前回から50名近  
く少なくなっていることについて、事務局では原因は不明という話があった。アンケ  
ート項目を充実させ設問が増えたため期限内に答えられなかったのではないかと、ス  
マートフォンやパソコンで気軽に回答できるようにした方がよいなど原因はあると  
思われるが、次回計画策定時の課題としていただきたい。計画の基本理念についても、  
実現できるような市になれば理想的であるという話もあったので、より下野市が障  
がいのある方にも住みやすい市になるようにしていきたい。また、自立支援協議会の  
各部会から掲げたテーマも入っているので、それをどのように解決していくかも  
我々が一緒に考えていかなければならない点だと思っている。

(鈴木委員)

ヤングケアラーの家族や当事者だけでなく、それに関わる周囲に対しても注目され  
ることが多いと思うので、周囲の方への取組も計画に盛り込まれることが非常に大  
事になると感じた。虐待に関しても、今回の報告の中で非常に件数が増えているので、  
計画の中でしっかりと検討していくことで意識できると感じている。

## (3) 障がい児者相談支援センター活動報告

(事務局)

資料3に基づき以下のとおり報告。

(鱒淵会長)

障がい者が65歳到達で介護保険サービスへ移行という話だが、障がいがあっても元  
気な方もいて、介護が必要な方でないと対象にならないので、全ての方が介護保険サ  
ービスに移行できるわけではないということによいか。

(事務局)

実際に手引きを作って、実事例で検証してみた。もうすぐ65歳になる視覚障がいの  
ある方で検証したが、いざ介護認定調査を受けたら非該当になってしまったケース  
がある。障がいでは視覚障がいがあると区分3くらいが多いが、体が元気だと介護保  
険は非該当になってしまう。その方は介護保険が非該当になったので、障がいサービ

スを引き続き使うということになった。実際にこれから 65 歳になる方でもそういう方はいらっしゃると思われる。

(鱒淵会長)

介護保険が非該当になるという段階を踏まないといけないということか。

(事務局)

あくまで介護保険が優先ではあるので、介護保険の認定調査は受けないといけない。

#### (4) 障がい福祉サービス等事業所等の情報提供

(事務局)

資料 4 に基づき報告。

(鱒淵会長)

グループホームがたくさんできるようだが、グループホームは日中支援型か、それともあくまで生活の場であり、昼間はどこかの日中サービスに繋がらなければならぬか。

(事務局)

今回記載したグループホームは日中支援型ではないが、「ドクターわおん」と「スマイルファミリー」は日中いても大丈夫という書き方をしている。

(鱒淵会長)

日中活動系サービスの事業所に通っていると、どうしてもそこに通えるということが前提となってくるが、24 時間見てもらえるということであれば地域が別になっても選択できる。グループホームが増えてきているが、慎重に中の支援体制などを見極めた上での選択が必要になる。

#### (5) 障害者虐待防止法による通報届出状況の報告

(事務局)

資料 5 に基づき報告。

(鱒淵会長)

今年度件数が増えた原因は何だと分析しているか。

(事務局)

コロナもあり 3 年ほど人の出入りが少なかったと思うのだが、コロナの影響もあり従事者も転職だったり入れ替わりがあったりと、人員不足が深刻になっていったのではないかと予測される。従事されている方は一生懸命やっていると思うが、いらだちやストレスなど、そういったことは現場にあると感じる。内部で解決策を見出そうと話し合いや協議を重ねたということが調査したところではあったが、それでも改善されなかったという結果が虐待通告という結果になり、解決の道筋を探しているように感じている。

(大嶋コーディネーター)

今年は虐待件数が増えている傾向がある。グループホームなどの居住の場での虐待が多い印象。長くいるところ、外から見えないところでの発生が多い。通報してくれる人が増えたということもある。従事者からの通報ということで、重い方をお預かりしている施設では、周りの方の支援も必要かと思う。

(事務局)

今回の事業者向けアンケートの設問にもあるが、「どのようにして虐待防止に取り組まれているか」という設問で、9割が「研修を実施している」、「虐待防止委員会を設置している」としているが、「虐待防止マニュアル等を作成している」は6割弱、「下野市障がい者虐待防止担当課の連絡先を掲示している」は5割となっている。支援者がどのように対応をすればいいのかがスキル無くできていないというところもあると思われるので、実態把握を行ったうえで、自立支援協議会の相談部会の方で支援員に向けた研修会などを企画することを考えてもいいと思っている。

(鱒淵会長)

グループホームは支援員という資格を持った方だけでなく、食事の世話をしたり日常生活のお世話をする世話人が利用者の支援を行う。内部での支援方法の良し悪しが分からない状態で支援をしている世話人も多いと聞いている。世話人の集う機会や情報交換できる機会を作ることで、ガス抜きや仕事の振り返りの機会になると思うので、各施設で必要な研修会を企画していただき、それに参加することで支援の質が上がり、そこから虐待を減らすということを期待している。

## (6) その他

(事務局)

- ・障がい者週間について

12月2日(土)～12月8日(金)までの7日間、市内施設連絡会による授産品の販売会、市内事業所等からの作品展示会を行う。12月2日(土)～12月5日(火)をヨークベニマル石橋店(2日、3日は11:00～90分程度、4日、5日は11:30～90分程度)、12月6日(水)～8日(金)は市役所1階ロビー(11:30～12:45まで)で行う。市の広報誌11月号に掲載。

- ・ふくしフェスタについて

11月25日(土)ゆうゆう館で開催。9:00からオープニングセレモニー、9:30～14:30で掲示や催し物などが出る予定。自立支援協議会ではテント一張りを確保しており、活動報告やワークショップなどを計画している。9:30～12:00の午前と12:00～14:30の午後で各部会から1名ずつご協力いただきたい。

各部会に分かれ、部会協議事項に沿って検討、協議。

#### 4. 閉会

議事録署名人 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_